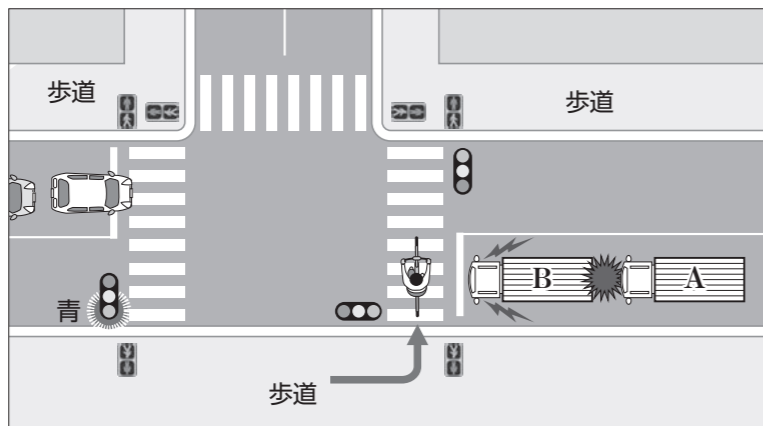


# 職場における交通安全指導

Part 101

【信号待ちの前車に追従して発進したところ、前車が急停止し追突



## ■事故の概要

- 発生日時  
日 時：平成21年7月某日 午後3時頃  
天 候：晴れ
- 道路状況  
片側一車線の県道丁字路交差点
- 事故の当事者  
運転者A（大型貨物車）：31歳、男性  
被害者B（大型貨物車）：45歳、男性
- 被害状況  
A：フロント部分小破  
B：荷台扉小破

## 事故状況

Aは入社して1年になるが、入社前に9年ほど別の運送会社で大型貨物自動車の乗務経験があるドライバーだった。事故歴はなく真面目な性格で、日ごろから慎重な運転をしていた。

入社1年目ということもあり、自分自身の会社での評価を気にし、7月に入り連日猛暑が続く中、疲労を感じながらも頑張っており、運転することが多くあった。

事故当日は、早朝に会社を出発し、全ての搬送業務を終え、帰社するために片側1車線道路の丁字路交差点を前車のBに続いて信号待ちをしていた。前車が大型貨物車であったため、Aは青色信

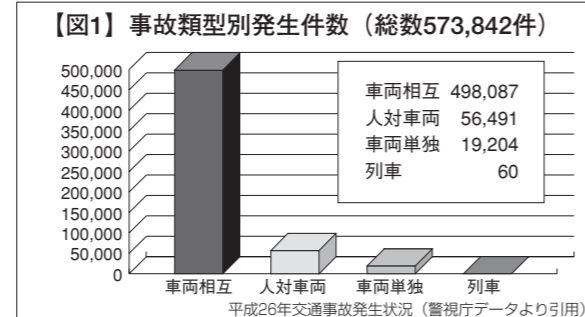
号を確認できていないもののBが発進したためAもアクセルを踏み込み発進した。Bは信号が青に変わったことで発進したものの、その直後、横断歩道を急いで渡ってきた自転車を認め急ブレーキをかけ停車したため、AはBの急停止に対応できず追突し、Bの荷台扉に損傷を負わせてしまった。

## 安全指導

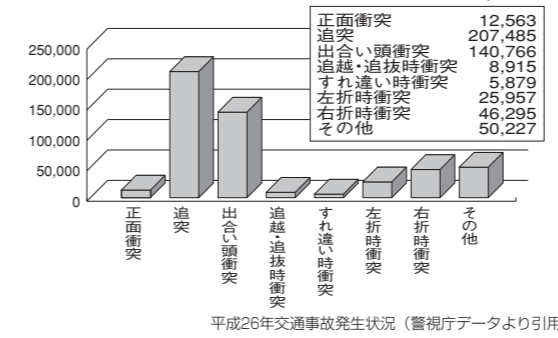
### ① 車両相互における追突事故の実態

平成26年に発生した全国事故類型別発生件数573,842件、うち車両相互の事故が498,087件（約87%）と圧倒的に多いことがわかります。【図1】

さらに【図2】のように車両相互での類型別事故発生件数を見ても、追突による事故が207,485件と全体の約42%と高い割合を占めていることがわかります。



【図2】 車両相互事故の類型別発生件数（総数498,087件）



### ② 心と体にゆとりを

Aは、早朝から出発し全ての搬送業務を終え帰社するだけという安堵感などから緊張感が緩み、また連日の猛暑から疲労度が増して、注意力や思考力が散漫となり、安全確認を確実にすることなくBの発進に追従してアクセルを踏んだことによる「漫然運転」の事故といえます。本人も入社1年目ということで業務に奮闘し、7月の猛暑が続く中、疲労感を覚えながらも乗務をしたことも、事故の背後要因として考えられます。

普段から自身の体調管理に配慮し、心身の状態を良好に保ち、余裕を持った運転を心掛けることが必要です。

### ③ 危険を予測した運転

日常の乗務の中で相手の運転行動が、自分の予測と違った場合には驚いてしまいがちですが、これは危険予測が十分にできていない証拠です。相手がどのような運転行動をとったとしても、対応できるよう準備しておきましょう。

他車の動きを自分勝手に判断することは危険です。「…するだろう」ではなく、「…するかもしれない」と常に相手の動きを読む運転を心掛けましょう。

追突事故を防ぐには、前車の動きと周囲の状況をよく見ておくことが重要です。ドライバーによってはウインカーを出さずに急減速し、路外の駐車場などに入るケースがあります。また交差点の手前では、今回のケースのように前車が急停止する場合がありますので、常に前車の動向に注意し、事前に危険回避できるよう余裕をもった運転をすることが大切です。

### ④ 十分な車間距離の確保

先を急ごうとして、前車との車間距離を詰めるドライバーがいます。しかし、車間距離を詰めたところで目的地に到着する時間が短縮されることはまずありません。車間距離を詰めても、良いことは何もなく今回のような追突事故になる危険性が増すだけです。前車との適度な車間距離を保って走行するように心掛けてください。

### ⑤ 漫然運転

漫然運転とは、前を見ているが何らかの要因によって意識がぼんやりとし、緩慢な運転を行うことをいいます。

今回のように搬送後は、緊張感から解放されてつい気が緩んだ運転になりがちです。また、疲労の蓄積により、運転に集中することが出来なかったり、いろいろな要因により「漫然運転」になるケースが多いです。

### ⑥ 運転業務の偏りや過労に配慮

近年、過労運転や居眠り運転による重大事故の発生抑止が叫ばれています。運行管理者は、ドライバーの乗務に過度な負担がないか配慮し、運行計画を作成しなければなりません。

また、一般的に睡眠時間が5～6時間を下回ると、注意力が散漫になるといわれ、プロドライバーの場合、連続8時間以上の休息期間を取ることができるように、十分な自己管理を心掛けていくことが重要です。

特に、夏季は30度以上の猛暑日が続くことが多く、睡眠をしっかり取り、水分補給を充分に行い、熱中症を防止し、体調管理に努めましょう。

長距離運転時にも注意が必要です。長距離運転は、休憩をとるのが面倒になってきます。休憩は、「もう少し先で、もう少し先で」と無理をしていると集中力が減退し、「漫然運転」を誘引し事故につながる可能性があります。長距離を運転するときは、2時間に一度は休憩を取るよう運行計画を作成することが大切です。